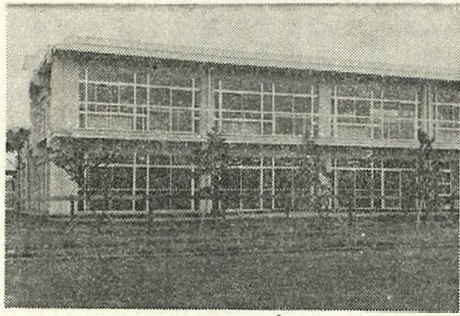


実践女子大学図書館 日野教養部分館新築雑感



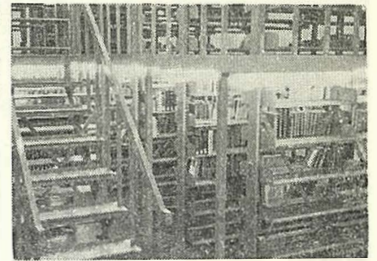
茂木 コウ



実践女子学園が下田歌子先生の新しい女子教育の理念のもとに創設されてからすでに七〇年、渋谷の一郭にはその伝統を誇る校舎が

が、諸事情により一階は食堂、学生用各委員会室および談話室によってしめられ、二階が図書館で閲覧室、書庫・整理室に分けられている。閲覧室はグラウンドに面し三方網戸つきガラス窓で、一階の中庭より吹き抜けになっている採光用の窓を囲むように、受付け・雑誌コーナー・学生用閲覧席九六、教職員用閲覧席八が配置されている。雑誌用コーナーと学生用閲覧席は、片面オープンファイル、片面指定書架の複式二連書架によって

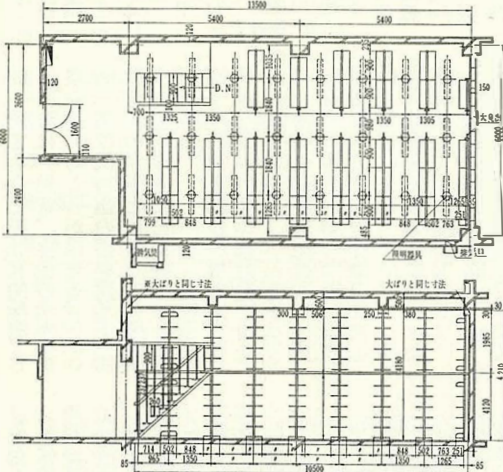
そびえ、中学・高校・短大・大学・大学院と下田先生の建学の精神を軸とした一貫教育がなされている。その渋谷から中央線で約一時間で日野駅、都心の喧嘩からはまったく開放される。駅から徒歩五分、周囲に山々を望み、樹々も多く、道端の草に季節の移り



仕切られ、学生席と教職員席は窓下書架によって仕切られている。したがって閲覧室は空間が多くゆつたりした感じを与え、受付けから一部を除きほとんど見渡すことが出来る。書庫は四万冊収容可能で丸善の積層書架である。

以上が当図書館の主な構成であるが、使用してみると種々問題は出てくるものである。先ず、この図書館には出入口にドアがない。階段を上るとロッカーがあり、受付けを経て書庫または閲覧室へ入るようになっていく。これは利用者にとって開放的で、非常に入りやすいという利点もあるのだが、階下の雑音に悩まされるという欠点を持っている。

家具の点では、いままで使用していた傾斜のある衝立てつき六人掛けの閲覧机を、資料ののせにくい、間に挟まれた者の学習が阻害される等の点から、四人掛けの平らな閲覧机に切りかえ、一つ一つ離して配列した。この点は非常に好評であるが、机が高すぎ、永い間学習を続けると疲れるという苦情が出てきた。また衝立てのある机の方が落着いて学習出来るとの声もある。椅子はハイモールド成型いす・ビニールレザー張りを使用、色、座り心地、高さとも好評である。教職員閲覧机は全部一人用とし、窓下書架に必要な資料を常時備え付けておけるよう配慮した。これも好評である。図書館員としては、整理室が西側にあるため西日に悩まされること、出入口が一個所しかなく書庫の出入口と錯綜すること、書庫の階段が高いこと等があげられる。



図書館内部のレイアウト、および家具に関しては二、三の業者に依頼し、図書館員でミーティングを行ない、学園の施設課とも検討しあって決定したのであるが、建築に関して建築家との直接交渉はあまりなかったように思われる。使用者と建築家との対話が欠けていたのではなかったろうか。図書館建築が具体化され、建築家に設計が依頼されたら図書館の性格を建築家に具

体的に説明し、建築に対する諸要求を示して話し合うことは必要欠くべからざることであろう。竣工後に使用上の不便を述べたところで、改造など不可能な場合が多いからである。

さて、新図書館が完成し移転・開館となりまず感じたことは、利用状況が旧分室だった頃に比較して非常に活発になったことである。一年次と二年次ではその勉強に差もあるが、広々とした明るい環境が利用者の学習意欲を増したことも事実であろう。当初の計画ではブラウジングルームにゆつたりとしたソファや調度を置き、学習の疲れをいやす憩いの場を設ける予定であったが、そこまで完備できなかった。しかし今後は利用者の意見を聞き、徐々に設備をととのえていきたいと思っている。

現在分館としての最大の悩みは蔵書の少ないことで、利用者の要望に応じられない場合がしばしば生じ、渋谷本館の利用を指導しなければならぬが、これは利用者のもっとも不満とする点であろう。幸い本年度の図書委員会において、日野教養部分館の資料の充実をはかることが決議されたのでおいおい増加する予定である。念願の図書館は完成したが、これからは分館という性格を考慮した蔵書構成・指定図書・個人用閲覧席等検討しなければならぬ問題が山積している。静かな学習環境の日野で、一年次・二年次を送る学生のために、快適な勉強が出来るような施設を提供すべく努力していきたいと思っている。

(実践女子大学図書館司書)